

## 校長研修だより209

### 大学入試の動向

2025・7・23 重枝 一郎

高3の先生方は、感度が高いと思うが、本校は中1～高3までのワンチームであるから、大学入試の動向について書いてみる。6月に理事会メンバーでリクルートとベネッセの研修会をもった。中高は、生徒向けの進路学習会等でよくしていることである。私は、学院の経営陣がこのような研修をすることはとても大切だと思った。また、7月には、本校の進路講演で長年お世話になっている、京都芸大の吉田大作先生にも研修をしていただいた。研修後、吉田先生と教頭たち、大学の事務の方々と懇親会もあった。女学院ワンチームにつながる。

私大については、受験者数は少し増加したが、合格者数は減少している。ただ、受験方式別に志願者数と合格者数の推移を分析すると状況は異なる。共通テストを課す方式では、志願者数・合格者数ともに増加している。共通テストが導入された21年度入試以降、私大専願者は共通テストを避ける傾向が見られていたが、共通テストを課す方式で合格率の上昇が続いたことを受けて、共通テストを課す方式の志願者数が回復傾向にある。特に、文系の共通テストを課す方式の合格率は上昇している。

また、私大では文系の学部系統の人气が回復している。例えば、法学部系統や経済・経営・商学系統である。ちなみに女学院大にはない学部になる。共学 or 女子大論議もあるが、学部の影響も要素としてあるかもしれない。25年度入試では、総合型・学校推薦型選抜の志願者数・合格者数がいずれも増加している。特に私大では、志願者数の増加が顕著だった。

さて、26年度大学入試に向けて、私たちはどのように指導を行っていくのがいいのだろう。例えば、共通テスト対策でよく言われるのが「国数英の完成を早め、理社情報の対策を充実させる」「読解量の多い問題を出題する」「複数資料を比較・関連付けるような活動を行う」等を聞く。ただ、どの学校でも言われるのが、それを組織的にしているかがポイントになるということである。

また、年内入試指導のノウハウを校内全体に広げることも大切だと言われる。その背景には、総合型・学校推薦型選抜を受検する生徒が年々増加する中、一部の教師にだけ年内入試の指導を委ねるこれまでの体制では無理ということがある。以前から皆川進路指導主事が言っていることになる。高3の年内入試の指導体制構築の意識は、組織として共有しなくてはならない。そのことが先生たちの負荷軽減にもなる。

今後、一般入試と年内入試の両方を睨みながらの指導を求められる。生徒たちは私大受験において、国公立大併願層向けの他教科共通テスト利用型、私大専願層向けのアカルト型、年内入試の学力重視型、年内入試の多面的評価型の4類型がスタンダードになっていく。

一般入試と年内入試の両方を視野に入れた取組とは、探究・HR・行事等の活動をキャリア観に結びつけて、志望理由として外化させること。もう一つは、その志望理由を多様な観点で検討し、各大学との親和性を判断することになる。本校はその大枠は共有していると思っている。

1学期ありがとうございました。新しく仲間になった先生方、元気ですか。みんな「こんな2学期にするぞ!」というポジティブな感じになれるよう、よい夏休みを。